



OUT THERE Itoshima

志摩園だより

福岡県糸島市志摩久家2527番地の2
TEL 092-328-2121
E-mail: shimakai@proof.ocn.ne.jp
<http://www.shimaen.or.jp>

特別養護老人ホーム志摩園
ショートステイ
デイサービス
ケアプラン

2014.4.30発行
社会福祉法人
志摩会
第43号

配食サービス
志摩園支援センター
小規模多機能型居
宅介護



平成26年4月1日 辞令交付式

A4サイズ1枚に込めた思い

遂に社会に飛び出した今の気持ちは紛れもなく、
みなさん自身のもの…人生は一度きりだけど、
ピンチとチャンスは幾度か巡ってくるもの
だから性格スキルの伸びしろは無限なのです

人材確保の取り組み

介護の仕事未経験者や高齢者、障害者の方が積極的にアプローチできるように「ユニバーサル就労」の観点から、志摩会の介護業務を現在、再整理しています。例えば、

- ・食事配膳、下膳
- ・リビングキッチンでの洗い物
- ・簡易な掃除
- ・フロア見守り



など、特に高度な介護技術を要しない作業を担っていただくイメージです。

介護職員をサポートする役割は大切です。習熟して本来の介護職員への育成プログラムにつながるプロセスにもなります。

平成26年度第1回志摩園 入所検討委員会報告

【平成26年4月17日開催】

● 入所待機者の属性の推移

性別	(人)	H25.4	H25.10	H26.4
男性	51	60	53	
女性	149	167	181	
計	200	227	234	

※待機者数は毎回増加しており、
26年4月は過去最高の人数です

待機場所	(人)	H25.4	H25.10	H26.4
自宅	66	68	68	
医療機関	44	59	54	
老人保健施設	57	67	78	
グループホーム	17	11	11	
軽費老人ホーム	2	2	1	
養護老人ホーム	5	4	5	
有料老人ホーム	6	12	12	
特養老人ホーム	2	1	2	
その他	1	3	3	
計	200	227	234	

※軽度認定(要介護1、2相当)の方が直近で44%を占めています

介護保険者	(人)	H25.4	H25.10	H26.4
糸島市	167	195	201	
福岡市	24	21	20	
その他	9	11	13	
計	200	227	234	

◇ 平成25年度に志摩園に入所された方は20名で、入所申込から入所までの期間は平均16ヶ月でした

新卒採用職員
平成26年度は4名の新卒者を採用しました。皆さん、老人ホーム志摩園の配属です。若い入たちはそこにいるだけで元気を与えてくれます。

藤嶋 真梨菜
(糸島高校卒)

“ソフトボール部”
で鍛えました

井上 桃子
(糸島農業高校卒)
“趣味は音楽鑑賞”
誰とでも仲良く
なれます



尾崎 奈緒
(糸島農業高校卒)

オムライス
“野球観戦と料理”
が趣味です

楠本 愛果
(大分大学卒)
“愛媛→大分→福岡”
住んだことのない新しい町で成長したい
です

左から藤嶋、井上、尾崎、楠本
早い、遅いは人それぞれ、
頼れる人材に成長期待しています

平成26年度事業計画から… 法人組織改編と人材確保の2点の概要です

地域包括ケア開発室を新設

地域包括ケアシステムは団塊世代の皆様が全員75歳に到達する2025年を目標に国家施策としてその構築が推進されますが、事業の実施は市町村です。

糸島市においても前年度から、いとしま版地域包括ケアシステムである「糸島あんしん支え合いネットワーク」の基盤構築事業がスタートし、志摩会としても新中期事業計画(平成26年度からの3ヶ年)において、地域包括ケアシステムへの役割として、法人一体となって地域に貢献する組織・基盤を作ることを目指し、新たに法人組織に「地域包括ケア開発室」を設けました。

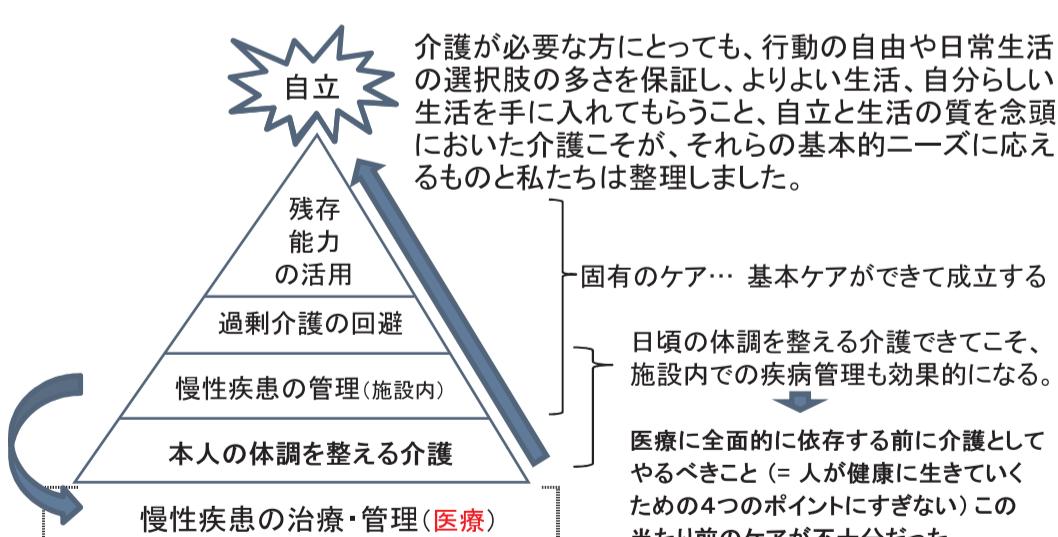
包括ケアに関わる研究やサービスの開発の他、人材育成等幅広く活動する計画です。

まず、特養のライン組織上に位置付け、現場組織により近いところでスタートしますが、将来は法人本部の経営管理部門に移行できればと考えています。

志摩園の自立支援介護の取組経過

(自立を取り戻す介護とは何かー特養が果たす機能)
(25年度は水分、排泄、運動ケアの取組をスタート)

- ★ 「自立」という概念は多義的に使われます。精神的、社会的、身体的自立というようにして、私たちの仕事の根柢でもある、老人福祉法や介護保険法では、利用者の自己決定を尊重し、自らの意思に基づいて、より自立した質の高い生活が送れるよう盛り込まれています。
- ★ 私たちは生活のほとんどに自立しているからこそ、他からの干渉なく、自由に振る舞える(生活する)ことができるのであり、その意味で、「なるべく他からの干渉のない生活は「自分らしい生活」と言って良いのかもしれません。



高齢者の体調を整える4つの基本ケア

- 1 水分
 - 2 食事
 - 3 排便
 - 4 運動
- ～ 人間が1日に必要とする水分をとる(1500ml目標)
～ 1日1500kcal、食物繊維の多い常食が理想的
～ 毎日～2、3日に1回、下剤を使わず自然排便
～ 主に歩行すること

※ 上記4つは、身体介護だけでなく、認知症介護にも共通する基本ケアとなります

成 果 の 目標	・志摩園入所の皆さんだけではなく、デイサービス等のご利用者にも自立支援ができる ・介護ご家族や地域全体にもお家で取り組める自立支援ケアとして職員が助言できる ・特養入所から在宅復帰のアプローチにチャレンジする ・介護職員の専門性の向上につなぐ
----------	--

いろんな職種から見た 介護の仕事

(第1回)

連載企画

職員リレー



水分ケア

- 水分ケアに取組む以前の入所者平均水分摂取量

一日 662ml H25.5.1時点

- ・ 水分とは…
水道水、日本茶、コーヒー、紅茶、牛乳、ジュース、寒天ゼリーなどであり、食事としての味噌汁やスープ類は水分摂取量に含めない
- ・ 午前7時～午後9時の間の摂取分で職員のパソコン入力データに基づいている(上記時間帯以外にも随時水分補給はあり)

水分ケア開始後の平均水分量

一日 836ml H25.7.23時点

- ・ 十分と思っていた経管栄養の方が水分の定義に合わせると少ないことに気付いた

以降毎月第5週の平均水分摂取量(2月は第4週)

H25年 8月	918 ml
" 9月	895 ml
" 10月	975 ml
" 11月	1001 ml
" 12月	984 ml
H26年 1月	1014 ml
" 2月	989 ml
" 3月	1025 ml

- 汗を搔きにくい冬季でも水分摂取量が低下していないことは、明らかに職員の意識の向上

- 入所者個人個人の好きな飲み物を確認して、水分の種類を増やした



- 温かい飲物、冷たい飲物もすぐに提供できるよう備品を整備

- ムセやすい方には寒天ゼリーにして提供

【初年度効果】

- ・意識覚醒水準が確実にup
- ・活動性もより増している
- ・当初に比べ摂取量は増えたが、さらに目標値に近づける余地がある
- ・この冬、脱水、発熱、風邪、肺炎などの発症者が少ない

【初年度課題】

- 心疾患、腎疾患など水分管理が必要な方への臨床ケアをもっと深めなければ不安
- 自立支援が目的で、飲水はその手段の一つであることをスタッフが正確に理解する
- 一日1500mlを目指しても本人の体重、体格等も考慮して合理的な必要水分量を設定してもよいのではないか

ごく自然の日常生活の中から入所者の皆様の機能改善、再獲得に職員は取り組んでいます

排泄ケア

オムツはしたくない。だから、オムツをはずしてトイレで排便できるようにしてほしい…もしもこんな希望があったらチャレンジできますか

- 自立支援介護で取り組む排泄ケアは オムツゼロを目指しています

- ・ オムツゼロとは…排便はオムツでとらないこと。排便は日中にあることがふつうなので、「日中オムツゼロ」に向かっています。
- ・ 従って、尿取りパットやりハビリパンツは必要に応じて使用します
- ・ 排泄を排便と排尿に分けて、オムツの中に排便しないようケアを展開することになります

- 水分ケアを先行させて、意識の覚醒水準を上げ、尿便意と我慢することを回復させること、体の活動性を良くし、腸の動きを活性化することで排便リズムを作っていくます

- 便秘対策と下剤はずし…9月1時点で定期・臨時の下剤使用率は入所者の約86%に達し、志摩園の下剤使用率が高いことがわかりました

- 下剤を使わない生理的排便(自然排便)にならないとオムツは外せません

- 実際に12月1日から対象者を決めてオムツ外しケアをスタートしました

- その人に適した水分量の確保

- 歩行の機会を日常生活にもっと増やす

- トイレでの座位排便を促す

- 乳製品、食物繊維を多く含む飲料水、食物の提供

- イージーファイバーの導入

- 睡眠覚醒リズムを整えるため規則的生活を促す

↓

- すぐには効果は現れず“試行錯誤ケア”的繰返し

↓

- 12月13日トイレで自然排便の確立に成功

(5回中4回は確実にトイレ排便ができ、日中オムツが不要となり、下剤も中止できました)

【初年度効果】

- 成功事例はまだ1例ですがオムツ外しに成功したことは見事です。職員は相当の自信になるはずです

【初年度課題】

- 他の施設の報告では入所者全員の日中のオムツ外しに成功するまでに2～3年や10年かかったと…

継続することが大事



運動ケア

以前の志摩園に比べると入所者は日中、ベッドから離れてリビング等で過ごすことが多くなりました。いわゆる“離床”はしています。

- また、志摩園では理学療法士等による機能訓練も個々人の訓練計画に基づき実施されています

歩けなくなることは筋力低下が原因ではなく、人は歩き方を忘れるために歩けなくなるというのが歩行の学習理論です。つまり、人はすべての動作を学習によって獲得し、使用しなければ動作能力は失われる(動作方法を忘れる)という考え方です

- 歩行能力の獲得には歩くことが一番の訓練というわけです

- 歩ければオムツは外せる可能性が大きい



■ 学習療法による歩行練習開始

- 介助歩行と車椅子併用の方や歩いていないが移乗自立で軽介助の車椅子使用の方はキャスター付きの歩行器を使用する

- 移乗全介助で車椅子操作全介助の方は、<5秒つかまり立ちテスト>を行い、できる方は歩行器歩行、できない方は3～4日の立位練習の後歩行器歩行に。

- 食堂、トイレ、レクレーションなど日常生活の中で歩行機会を利用

- 事前に居室から食堂までの距離などを計測して歩行距離の記録をしやすくした

【初年度効果】

- 平成18年10月に入所、歩行できていた方が22年12月に転倒骨折し、オムツ・車椅子使用で退院

- 退院後の状況は変わらなかったが、25年12月から歩行運動を開始し、現在30mまで歩行器歩行が可能となり、声掛けへの反応も改善している

【初年度課題】

- 基本ケアをバランスよく実行できるようになる

自立支援という言葉を今は漠然から明確なビジョンとして捉えられ始めました

いろんな職種から見た 介護の仕事

(第1回)

志摩会には170人余りの人たちが働いています。職種も介護職、看護職、栄養士、調理員、生活相談員、機能訓練指導員、事務員等多士済々(?)です。どの職種も、「自分たち単独」では良い仕事はできません。つまり、他の職種と上手く連携を取りながら進める必要があります。でも実際は、なかなか他の職種の仕事の中身はわかりにくいのも事実で、それに灯台もと暗なことも。そこで、広報誌再開を機に職員一人一人にスポットを当て、それぞれ思いを聞かせて頂きましょう

例えば、

- ・ 仕事と家庭の両立の秘訣
- ・ 志摩園で働いてよかったですこと、大変なこと

- ・ 仕事上の夢、目標
- ・ 得意なこと、趣味
- ・ 他の職種と連携するうえのコツ

- ・ 仕事のやりがい、楽しみ
- ・ 入所者へのメッセージ
- ・ ご家族へのメッセージ

～ 入園者の皆様に安心と楽しさを、私も仕事をとおして成長したい～

- ◆ 平成15年に事務職員として採用され、今では2児の母です。仕事と育児、家庭の三方両立は難しいときもありますが、職場や家族のサポートがあり、感謝しています。私自身も時間の使い方が上手になったと思います
- ◆ 段取りを考え、仕事をすれば時間内に終わらせられる、家事も仕事も集中すること、そしてたまには(家事を)手抜きします、それからリフレッシュすることも大切です
- ◆ 気づいたことは他の職種に伝えたり、分からることは聞いたりと情報の共有とコミュニケーションに努めています。各部門からの申送りも入園者の方の変化等に特に注意して聴いています

～ 入園者の生活を支えるため介護職員と一緒に悩み、他職種と協力しています～

- ◆ 私は多くの人と関わることが好きなので、一番人数の多い介護職で主任をさせて頂いてることは、天職と思っています。
- ◆ 志摩園は良い意味で上下関係が厳しくなく、上司も先輩もいつも意見や悩みに耳を傾けてくれて、「皆で一緒に解決する」チームワーク精神が浸透しています。
- ◆ 他職種との連携では、施設という一つの屋根でも、多くの職種があり、目指す方向は同じでも手段や考え方は様々なので、意見を言うときは相手のことを考えて、「言い方」に気付けています
- ◆ 趣味はドラマ鑑賞とニュースを見ること。深夜の海外ドラマも録画して、ニュースは報道ステーションからニュース23、ZERO、NNN24時までハシゴします
- ◆ 子供たちは自分も子供になって兄弟のように遊んでいます

Info

4/20 わいわいフェスタ



志摩園は焼きそばを出店しました
不安定な空模様でしたが、会場は大賑わいありがとうございました

4/24 志摩会歓迎会



ゲームも賞品も盛り沢山で新人もベテランも一体になされました

5/10(土) 志摩園創立記念演芸会

6/7(土) たからんた志摩さなぽり交流会

★次号は7月末発行予定です

平成25年度資格取得者 ご紹介

介護福祉士 (たからんた志摩通所介護)

“仕事を終えてからの家事と勉強は大変でしたが、今年で最後と思って頑張りました”



左野徳子

介護福祉士 (DSセンター第二志摩園)

“介護の知識が足りないと感じ勉強を始め、資格を取ったことで自信がつきました。家族のサポートもできるようになりました”



川崎美幸

介護支援専門員 (地域ケアこりん神在)

“実務研修はとてもためになるものでした。まだまだわからないところがあるので勉強を続けながら、子供の為にもがんばります”



吉村勇輝

【編集後記】 4年振りの「志摩園だより」再開です。この間、志摩園も世の中も様々に環境は大きく変化しました。全てが良い方向に変わっておれば安心なんですが、そんなことはあるはずないというのが道理でしょう。ですから、気を引き締めて毎日迎えていました。

私の場合、「気を引き締める」というのは、仕事を最優先にしながら、オフを楽しむ時間を作り出すということ。メンドウなこと、嫌なこと、難しいこと、気になること、時間がかかりそうなこと、期限が決まっていること(これは当たり前)を先にして、好きなこと、楽しみなことを後にしておくという性格なんです。

その甲斐あってか、昨年11月(結構忙しかった)はポール・マッカートニーに会いました。

そしてまた、今なんですか！！

その時の「マタ アイマショウ フクオカ！」のポールのニホンゴMCのとおり、今年の5月(もう来月のはなし！)また日本にやって来ます(残念ながら今回Fukuokaはなし)。

5月といえば、監事監査、決算役員会、新会計基準への移行処理、出張、その他…まあ、レギュラーな業務だけでも一年の中でも最も一杯のとき。でも…このたよりの表紙をもう一度ご覧下さい。「志摩園だより」のタイトルの上に“Out there Itoshima” のサブタイトルがついています。

志摩園はもっと外に出よう、地域の中に居よう、個性を発揮しよう

という思いを込めて、ポールさんからアイデアをお借りしました。

だから今は、ポールに会うために何でもやります という心境でしょうか…

この志摩園だより再開第1号は私にとってメンドウか楽しみか…ナイショ (A・K)